

丸  
中  
部  
太  
平  
洋  
方  
面  
部  
隊

-117-

0117

独立混成第五十一旅団高射砲隊（備第一七五七三部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九二二年	一一作命甲第一八五号に依り南海派遣のため牡丹江出發（高射砲第二十五連隊）
二二天	鮮満国境（図們）通過
三三三	釜山港出帆
三八八	東京港寄港
三一三	東京港出帆
三二二	「サイベン」島寄港、連隊の主力（連隊本部、第一、三大隊、本部一、二、六、七、八中隊）「ザイベン」島に上陸
三二四	同日「サイベン」島出帆 「トラック」島上陸（第二大隊本部、第五、九中隊） 爾後同島附近の防空及び警備に任ず
六三三	軍令陸甲第五十八号により復帰並に臨時編成改正下令
六七七	復帰並に編成改正完結、同日、独立混成第五十一旅団高射砲隊となる 爾後引続き同島復近の防空及び警備に任ず



独立混成第五十一旅団工兵隊（備第一七五七四部隊）

年	月	日	略	歴
昭和一九	二	二二五	編成完結（朝鮮）	陸軍機密第一〇〇号に依り第八派遣隊（工兵第九連隊第三中隊、工兵第十九連隊第三中隊を基幹とする）臨時編成下令 南海派遣のため、朝鮮会寧出發 釜山港出帆 南洋諸島「トラック」島上陸 第二次より第四次「トラック」島附近の戦斗に参加 軍令陸甲第五十八号に依り復帰並に臨時編成改正下令 復帰並に編成改正完結 同日独立混成第五十一旅団工兵隊となる 第五次より第九次「トラック」島附近の戦闘に参加 停戦 終戦
		二二七	南海派遣のため、朝鮮会寧出發	
		三三	釜山港出帆	
		三二五	南洋諸島「トラック」島上陸	
		三二五	第二次より第四次「トラック」島附近の戦斗に参加	
		六三	軍令陸甲第五十八号に依り復帰並に臨時編成改正下令	
		六七	復帰並に編成改正完結	
		八二五	同日独立混成第五十一旅団工兵隊となる	
		八二五	第五次より第九次「トラック」島附近の戦闘に参加	
		九二	停戦 終戦	

三  
一〇  
一五  
一八

内地帰還のため「トラック」島出帆  
浦賀港上陸  
復員完結

独立混成第五十一旅団第二砲兵隊（備第一七五七二部隊）

年	月	日	略	歴
昭和一九	二	二三		軍令により山砲兵第九連隊第一大隊臨時編成下令
	二	二五		編成完結（満洲国牡丹江）
	三	二		南海派遣のため牡丹江興隆出発
	三	三		鮮満国境図們通過
	三	二〇		釜山港出帆
	四	一八		「トラック」諸島月曜島上陸
				同日より同島警備
至自	一九	四	一八	第三次、第四次「トラック」島附近の戦闘に参加
	一九	六	三	軍令陸甲第五十八号に依り復帰下令、同日臨時編成（改正）下令
	一九	六	七	復帰完結同日編成改正完結、同日独立混成第五十一旅団第二砲兵隊と改称す
自	一九	八	二五	第五次より第九次「トラック」島附近の戦闘に参加
	一九	八	一五	停戦
	一九	九	二	終戦

	<p>二 一 五</p>
	<p>浦賀上陸 復員完結</p> <p>内地帰還のため「トラツク」島夏島出帆</p>

歩兵第四十九連隊第三大隊（備二五二四）

年 月 日	略 歴
昭和一九二三年	軍令により歩兵第四十九連隊第三大隊臨時編成下令
二二四	編成完結（北安省北安）
二二五	南方派遣のため北安出発
二二七	鮮満国境（安東）通過
三三三	釜山港出帆
三八八	横浜寄港
三三九	東京港寄港
三一〇	東京港出帆
三一九	「サイパン」島着
三二〇	「グワム」島上陸同日より同島警備
七二二	同日独立混成第十連隊の指揮下に入る 米軍同島（西海岸）に上陸 両軍の間に熾烈なる戦斗開始す



	<p>九三〇 八一五 二〇</p>
<p>(注) 戦闘間における戦傷者及び少数の生存者は米軍に収容され終戦後各個に復員す</p>	<p>全員玉碎 停戦 終戦</p>

戦車第九連隊（備第一二〇八九部隊）	
年 月 日	略 歴
昭和一九二一	軍令により戦車第九連隊動員下令
三 五	編成完結（満州牡丹江省東寧）
三 二五	釜山港出帆
四 一	横浜港出帆
四 八	「サイパン」島上陸（連隊本部、第一、三、五中隊整備中隊の半部）
四 一〇	「グワム」島上陸（第二、第四中隊、整備中隊整備中隊の半部）
六 一五	後「サイパン」島、「グワム」島の警備
七 一八	米軍「サイパン」島に上陸
七 二二	「サイパン」島に部隊玉砕
九 三〇	米軍「グワム」島に上陸
八 一五	グワム島（大宮島）部隊玉砕
二〇	停 戦
九 二	終 戦

（注） 戦闘間における戦傷者及び少数の生存者は米軍の収容所に入り終戦後各個に復員す

独立工兵第七連隊（備第七〇一七部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一六 七 七三〇	軍令により独立工兵第七連隊臨時編成下令 編成完結（熊本）
八一	門司港出帆
八三	釜山港上陸
八一〇	鮮満国境通過
八一二	満洲国牡丹江省、虎林着同日より同地附近の警備
一二二四	虎林発
一二二六	山海関通過
一二三二	中支蚌埠着、同日より同地附近の警備
一七 三二〇	中支蚌埠発
三二四	山海関通過
三二七	虎林着同日より同地附近の警備
一七 三二一三	虎林発

七三〇	グワム島部隊は米軍と交戦玉砕
七二二	米軍グワム島に上陸
七一九	サイパン島部隊は米軍と交戦玉砕
六一五	米軍サイパン島へ上陸
四一〇	第二中隊はグワム島へ上陸同島の警備
四〇八	連隊本部及び第一中隊第三中隊はサイパン島へ上陸
三二五	上海港出帆
三一七	南方派遣のため中支蚌埠出發
一一二七	中支蚌埠着同日より同地附近の警備
一一二四	山海関通過
一一二〇	虎林発
四一〇	虎林着同日より(虎頭)附近の道路工築並に警備
四〇五	山海関通過
一八四	中支蚌埠發
一三三〇	中支蚌埠着同日より同地附近の警備
一三二五	山海関通過

(注) これ等の戦斗間において負傷した者及び少数の生存者は終戦後米軍により帰還した。

独立歩兵第三四〇大隊（備第一七五六九部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九二二 三二	軍令により歩兵第七連隊第三大隊臨時編成下令 編成完結（満洲牡丹江）
三三	同日南海派遣のため掖河出発
三三	鮮満国境（図們）通過
三〇	釜山港出帆
四一七	「トラック」諸島月曜島上陸
	同日より同島守備
自一九四五 三八	第三次、第四次「トラック」島附近の戦闘に参加
自一九四六 三三	軍令陸甲第五十八号に依り復帰下令同日臨時編成（改正）下令
六六	復帰完結、同日編成改正完結、同日独立歩兵第三四〇大隊と改称す
八二五	第五次より第九次「トラック」島附近の戦闘に参加
八一五	停戦
九二	終戦

	二	一三
	一四	一三
	一七	一三
		内地帰還のため「トラック」島出帆
		浦賀港上陸
		復員完結

独立混成第五〇旅団高射砲隊（備第一七五六二）

年 月 日	略 歴
昭和一九二二年 三 四 五 六 九	<p>南方派遣のため満洲国黒河省孫呉出發（野戦高射砲第五十二大隊第三中隊）</p> <p>釜山において南洋第五支隊及び南方第七派遣隊と合流す</p> <p>釜山港出帆</p> <p>「カロリン」諸島「メレヨン」島に上陸</p> <p>泉後同島の防衛並に対空戦斗に参加</p> <p>独立混成第五十旅団高射砲隊に改編せらる</p> <p>七月上旬サイベン失陥後は現地自治に専念せるも食糧不足に依り風土病、伝染病、脚気栄養失調等のため部隊の大部消耗せり</p> <p>停戦</p> <p>終戦</p> <p>内地帰還のため「メレヨン」島出発</p> <p>復員完結</p>
昭和二〇 八 一 五	
九 二	
九	
一〇 九	

歩兵第四十連隊第三大隊（備第一七五二九部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 二二七	歩兵第四十連隊第三大隊編成下令
二二八	編成完結（満洲国東安省平陽）同日平陽出發
三二	満鮮国境通過
三二	釜山港出帆
三一〇	横浜港寄港出帆
三一九	「サイパン」島上陸
六一五	爾後同島の警備並に築城作業に従事
七一八	米軍同島へ上陸
昭和二〇 八一五	部隊玉砕
九二	停戦 終戦

（注） 戦闘間における戦傷者及び少数生存者は米軍の収容所に入り終戦後米軍により各個に復員した



独立混成第十三連隊（備）

年 月 日	略 歴
昭和一八二一七	軍令により独立混成第五連隊臨時動員下令
一一二二二	動員（編成）完結（広島）
一一二二四	南洋群島に派遣のため宇品港出帆
一一一	南洋マーシャル群島大島島（ウエーキ島）上陸
	爾後大島島防衛並に対空戦斗に参加
五二二	軍令陸甲第五八号に依り独立混成第五連隊現地復帰並に独立混成第十三連隊臨時編成下令
六三	編成完結
九四	大島島附近の対米機動部隊戦斗に参加
二〇六二〇	同 島附近の対米機動部隊戦闘に参加
七一八	同 島附近の対米機動部隊戦闘に参加
八一五	停戦
九二	終戦
一一一	内地帰還のため大島島出発

外五

二二四  
二二七

浦賀港上陸  
復員完結

年 月 日	略 歴
昭和一六 二	軍令により歩兵第五十七連隊第三大隊編成下令
二 一	編成完結（佐倉）
二 七	東京港出帆
二 一四	大連港上陸
二 二〇	満洲孫呉着
一九 二 一九	爾後黒河省孫呉附近の国境警備に任ず
二 二五	南方作戦参加下令のため孫呉出發
三 三	釜山着
三 三	釜山港出帆
三 五	東京港寄港
三 一〇	東京港出帆
三 一三	マリヤナ諸島グワム島上陸
	爾後同島の警備

歩兵第五十七連隊第三大隊（備第二五五四部隊）

	二〇		
九	八	九	七
二	一五	三〇	二

米軍同島に上陸

以後米軍との間に熾烈なる戦闘が反覆展開された

最後の総攻撃を敢行し全員玉砕す

停戦

終戦

(注) 同島に於ける戦闘間負傷等により米軍の俘虜となつた者及び少数の生存者は終戦後米軍により各個に復員する。

独立自動車第二六五中隊（備第六二六九部隊）

年 月 日	略 歴
昭和二六 七 七 七 一 六	軍令により独立自動車第二六五中隊編成下令 編成完結（京都）
八 二 三	大阪港出帆
八 二 四	釜山上陸
八 三 〇	鮮満国境通過、関東軍の隷下に入る
九 一 一	興安省海拉爾着
一 一 五	海拉爾出發與安省免渡河に移駐 爾後国境警備並に輸送業務に従事
一 八 一 一 五	免渡河出發海拉爾に移駐
一 九 三 一 〇	南方作戰参加下令
三 一 四	海拉爾出發
三 一 六	鮮満国境通過
三 一 八	釜山着

三二二	釜山港出帆
三一九	横浜港寄港
四一	横浜港出帆
四二二	マリヤナ諸島グワム島（大官島）上陸
七二	原後同島の警備輸送業務に従事
九三〇	米軍同島に上陸
	以後米軍との間に熾烈なる交戦を展開
	我が軍は最後の突撃を敢行し玉砕に至る
	<p>（注）同島に於ける戦闘間負傷等により米軍の俘虏となつた者及び少数の生存者は終戦後米軍により各個に復員する。</p>

歩兵第十二連隊第三大隊（備第一七五三七部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 二 二二五	軍令により歩兵第十二連隊第三大隊臨時編成下令 編成完結（満洲東安省虎林県宝東）
二二六	南方第六派遣隊として宝東出發
二二八	鮮満国境図們通過
三一 一	朝鮮釜山着
三三 三	釜山港出帆
三四 四	門司港寄港
三八 八	横浜港沖に碇泊
三二 二	東京港出帆
三一 九	サイパン島に到着
三二 〇	大宮島（グワム島）上陸同島の警備並に陣地構築
五二 三	編成改正により第六派遣隊は独立混成第四八旅団と独立混成第十連隊に改編、第十 二連隊第三大隊は独立歩兵第三二〇大隊となる（十二中隊は第三一九大隊に編入）

七二二  
九三〇

米軍大官島に上陸、見晴岬にて交戦  
大官島において部隊玉砕

(注) この戦闘間負傷等により米軍の俘虏となつた者及び少数の生存者は終戦後  
米軍により各国に復員した。



独立歩兵第三三六大隊（備第一七五六五部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九二二 三	陸亜機密第一〇〇号に依り独立歩兵第七十三連隊（第三大隊を基幹とする）臨時編成下令
二二五	編成完結（朝鮮）
二二八	南海派遣のため朝鮮羅南出
三二	釜山港出帆
三二五	南洋群島「トラック」諸島七曜、金曜島上陸
自一九三五 至一九三六 三	同日より同島守備
自一九三五 至一九三五 五	第二次より第四次「トラック」島附近の戦闘に参加
一九三六 三	軍令陸甲第五十八号に依り復帰下令
六七	同日臨時編成下令
六七	復帰完結同日編成（改正）完結
自一九三六 至一九三五 一	同日独立歩兵第三三六大隊となる
八六一 二五	第五次より第九次「トラック」島附近の戦斗に参加

八一五	九二	三一八	一三〇	二二
停戦	終戦	内地帰還のため「トラック」島出帆	浦賀港上陸	復員完結

(注) 復員については輸送の都合上数回に分れ帰還す

独立混成第九連隊（備第一七五八三部隊）

年月日	略歴
昭和一九二二四	第五派遣隊臨時編成下令
二二五	編成完結（満洲間島省琿春）
二二六	南方派遣のため琿春出発
二二九	釜山着
三三三	釜山港出帆
三一〇	東京港に集結
三二一	東京港出帆
三一八	中部太平洋マリヤナ諸島バガン島上陸
六六九	原後同島の警備並に対空戦闘に参加
六六三	軍令陸甲第五八号により独立混成第九連隊編成下令並に第五派遣隊復帰下令
二〇八一五	編成完結並に復帰完結 爾後引続きバガン島の警備 停戦

<p>三三三</p>	<p>三三三</p>	<p>三三三</p>	<p>三三三</p>	<p>三三三</p>	<p>三三三</p>
<p>三三三</p>	<p>三三三</p>	<p>三三三</p>	<p>三三三</p>	<p>三三三</p>	<p>三三三</p>

終 戦  
内地帰還のためバガン島出帆  
佐世保港上陸  
復員完結

独立混成第五二旅団砲兵隊（備第一七五八一部隊）

年	月	日	略	歴
昭和	一八	一一	一七	軍令により独立混成第五連隊臨時動員下令
		一一	二二	編成完結（広島）
	一九	一一	一五	宇品港出帆
		二	九	マーシャル群島ポナペ島上陸
				爾後ポナペ島の警備に任ず
至	一九	五	二五	ポナペ島における対空戦闘に参加
自	一九	五	二二	軍令陸甲第五十八号により独立混成第五二旅団砲兵隊臨時編成下令並に第五連隊復
				帰下令
		六	一〇	独立混成第五二旅団砲兵隊編成完結並に第五連隊復帰完結
	二〇	八	一五	停戦
		九	二	終戦
		三	九	内地帰還のためポナペ島出帆
		三	二二	浦賀港上陸
		三	二五	復員完結

第三十一軍通信隊（備第一七五〇〇部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 二二〇	第三十一軍通信隊編成下令
二二三	編成完結（釜山に於て関東軍固定通信隊より要員を集結のうえ）
二二三	釜山港出帆
三五	サイパン島上陸
五一〇	原後、東京、パオラ、ヤツブ、大宮島、トラツク島、マニラ間の通信業務に従事
六一五	パオラ島、及びグウム島へ一部上陸
七一八	米軍サイパン島に上陸 我が軍はこれを激撃戦を展開す 部隊は北部バナテル飛行場に於ける最後の総攻撃において玉砕

（注）サイパン島における戦闘間負傷等により米軍の俘虜となつた者少数の生存者は終戦後米軍により各個に復員した。

独立歩兵第三三二大隊（備第一七五五六部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一八一一三〇	昭和一八年軍令陸甲第一〇六号により南洋第五支隊臨時編成下令
一一一六	編成完結（福山市）
一九一四	屯営出（福山市）
一一六	宇品港出帆
一一一	米潜水艦の魚雷攻撃をうけ乗船沈没のため佐伯港上陸
一一九	再編成のため小倉市に集結
一三二	再編成完結
二二八	小倉市出発
二二九	門司港出帆
四二二	カロリン群島メレヨン島上陸
	同日より同島警備
六一	昭和一九年軍令陸甲第五十八号により独立混成第五十旅団臨時編成並に南洋第五支隊復帰下令

六九	独立歩兵第三三二大隊編成完結 爾後引続きメレヨン島の警備
二〇八二五	停戦
九二	終戦
九二〇	内地帰還のためメレヨン島出帆
九二八	別府港上陸
一〇九	復員完結



独立歩兵第三三三大隊（備第一七五五七部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九二二	滿洲牡丹江省西東安に駐留の歩兵第二十二連隊第一大隊（松山編成）に南方転進下令
一九二二 二二六	動員完結（南方第五支隊）
二二七	西東安出發
二二九	釜山着
三三三	釜山港出帆
三七七	門司入港
三八八	門司港出帆
三一〇	台湾高雄寄港
三一七	高雄港出帆
四二二	パラオ、サイパン、グワム島寄港經由カロリン諸島メレヨン島に上陸 爾後メレヨン島の整備に任ず
六一一	昭和一九二九年軍令陸甲第五十八号により独立混成第五十旅団臨時編成並に第五支隊復



独立歩兵第三三四大隊（備第一七五五八部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九二二 二二六	軍令により歩兵第三十二連隊第三大編成下令 南方第七派遣隊編成完結（東安省密山県崗）
同日	密山県崗出發
二二八	鮮満国境（図門）通過同日釜山着
三二	釜山港出帆
三五	門司港寄港
三一七	高礁港寄港
四一二	パラオ、サイパン、グワン島寄港經由カロリン諸島メレヨン島に上陸 爾後メレヨン島の警備に任ず
六一	軍令陸甲第五十八号により独立混成第五十旅団臨時編成並に南方第七派遣隊復帰下 令
六九	独立混成第五十旅団歩兵第三三四大隊編成完結
八五	停戦
二〇	

九二

九二〇

九二八

一〇九

終戦

内地帰還のためメレヨン島出発

別府港上陸

復員完結

独立混成第五〇旅団戦車隊（備第一七五六〇部隊）

年月日	略歴
昭和一八一三〇	南洋第五支隊編成下令
一九一一六	宇品にて南洋第五支隊編成完結
一一二	宇品港出帆大分県佐伯港寄港
一一一	佐伯港出帆十二時頃宮崎県島の岬沖二哩半位の海上にて米潜水艦攻撃を受け佐伯港に入港
一一二	門司港上陸
三二二	小倉において再編成の後門司港出帆
三一四	台湾ポーク島寄港
三一六	高雄港寄港
三三二	同港出帆
四七	サイパン島寄港
四八	同港出帆
四九	グアム島寄港同日出帆

四一四	東カロリン諸島メレヨン島上陸 同島の警備
六一一	軍令陸甲第五八号により独立混成第五〇旅団戦車隊臨時編成下令
六九	編成完結
二〇八五	爾後引続きメレヨン島の警備に任ず
二〇八	停戦
二〇九	内地帰還のためメレヨン島出発 別府港上陸 復員完結

独立歩兵第三三一大隊（備）

年 月 日	略 歴
昭和一八二一三〇	軍令陸甲第一〇六号により南洋第五支隊臨時編成下令並に歩兵第四百一十一連隊補充隊復帰下令
一一一六	編成竝に復師完結（丸鯨）
一九一三	南方派遣のため屯営出
一一六	宇品港出發
一一一	乗船（エリー丸）魚雷攻撃をうけ沈没のため佐伯港上陸
一一九	再編成の爲め小倉市に集結
一一三	再編成完結（小倉）
二二八	小倉市出發
二二九	門司港出帆
四一二	カロリン群島メレヨン島上陸
六一	昭和一九年軍令陸甲第五八号より独立混成第五〇旅団独立歩兵第三三一大隊臨時編成下令

編成完結	六九				
爾後メレヨン島の警備	二〇八一五				
停戦	二〇九二				
終戦	二〇九二〇				
内地帰還のためメレヨン島出帆	九二八				
別府上陸	一〇一〇				
復員完結					



南洋第一支隊（備第一一二二一部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一六二一	歩兵第一二二連隊編成下令
一一二五	編成完結（四国、松山）同日三津浜港出帆
一一三〇	台湾基隆港上陸
一二二六	台湾高雄港出帆
一七一	比島ルソン島リンガエン湾上陸
一八七	北部ルソン島既定作戦のため陸路移動
一八二四	南太平洋方面へ転進のためマニラ港出帆
	同日第八方面軍司令官の隷下に入る
九一七	クエゼリン島着、同日第六海軍根拠地同令官の指揮下に入る
九一九	クエゼリン島出帆
九二二	ミレー島着
一九三三	第一次南洋作戦マーシャル群島（ミレー島、ウオツゼ島、ケゼリン島）各島に分散
一八〇九	上陸警備
一八三三	

	至自	至自	至自	至自
	二〇九	一九九	一八	一八
九	八	三	二	二
二	一五	一〇	一	一
	八三	三	二	二
	一五〇	一〇	三	三
		九	〇	〇

  

第二次南洋作戦マーシャル群島警備  
 軍令陸甲第一〇六により歩兵第一二二連隊現地復帰並に南洋第一支隊臨時編成下令  
 現地復帰並に編成第一日  
 現地復帰並に編成完結  
 マーシャル諸島戦参加  
 第三十一軍司令官の隷下に入る  
 マーシャル諸島守備  
 停戦  
 終戦  
 以後待令間勤務

(注) 部隊の復員は各中隊がマーシャル群島各島に所在のため各中隊毎に復員し  
 復員年月日は一定せず。

独立混成第五〇旅団通信隊（備第一七五五四部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九二二	軍令により第七派遣隊本部編成下令
二二五	編成完結（満洲、東安省）
二二七	南方派遣のため東安省密山県西東安出發
二二七	鮮満国境図們通過
三四	釜山港出帆
四二二	西カロリン諸島メレヨン、フラ・ツプ島上陸
六一	爾後メレヨン島の守備
六九	軍令陸甲第五十八号に依り第七派遣隊本部復帰並に独立混成第五〇旅団通信隊臨時編成下令
二〇八二	復帰並に編成完結（メレヨン島）
二〇八五	爾後引続き同島の守備
九二	停戦 終戦

九二〇  
〃二八  
一〇九

食糧不足のため栄養失調、マラニヤ等脱出し戦病死者多発した  
内地帰還のためメレヨン島出帆  
別府港上陸  
復員完結

海上機動第一旅団第三大隊（駆第三一三三部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一八二一	軍令により海上機動第一旅団第三大隊編成下令
一一一	編成完結（満洲白城子）
一一一〇	南方派遣のため白城子出発
一一一七	釜山港出帆
一一一九	門司港寄港
一一二〇	門司港出帆
一一二四	マーシャル諸島トラツク島上陸
一一二八	船舶集結の上同島出発
一九一一	旅団はルオット、クエゼリン、ブラウン島のエニツトエンチャヤビ島等に分散上陸 第三大隊も小隊一、砲一、工一、等をルオット島に分遣し大隊主力はエンチャヤビ島 に上陸同島の陣地構築等に從事
一九二二〇	米軍は猛烈なる砲爆撃の後同日同島に上陸す 原後米軍と熾烈なる戦斗に入る

二〇 二二四  
八一五

最後の斬込を敢行し全員玉碎せり  
停戦

(注) この戦闘間において負傷等により米軍の俘虏となつた者は終戦後米軍により復員した。

第二十九師団戦車隊（雷第四三六四部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九二〇	軍令により第二九師団戦車隊編成下令 編成完結（名古屋）
二二二	満洲牡丹江省寧安県海浪にて動員完結 海浪出発
同日	鮮満国境通過
二二三	釜山着第二九師団の隷下に入る
二二四	釜山港出帆
二二五	門司港寄港
二二六	門司港出帆
二二九	太平洋上で米潜水艦の攻撃を受け約半数の部隊海没
三四	マリヤナ諸島グワム島に上陸
	同日より同島の警備
六一二	米軍の同島空爆撃開始

七 三	九 三〇	二〇	九 二
米軍同島に上陸	爾後米軍との間に熾烈なる戦斗展開	最後の総攻撃を敢行し全員玉砕	停戦
<p>(注) 同島に於ける戦闘間負傷等により米軍の俘虏となったもの及び少数の生存者は終戦後米軍により各個に復員する。</p>			
終戦			



第二十九師団輜重隊（雷第三二〇三部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九二二	軍令により第二十九師団輜重隊臨時編成下令
二二一	編成完結（満洲遼陽）
同日	遼陽出發
二二二	鮮満国境通過
二二三	釜山港出帆
二二四	宇品港寄港
二二七	同港出帆
二二六	グワム（大宮）島上陸
七二二	同日より同島の警備に任ず
九三〇	米軍同島に上陸 同島において玉砕

（注）グワム島における戦闘間負傷等により米軍の俘虏となつた者及び少数の生存者は終戦後米軍により各個に復員した。